

海外行政視察報告書

視察議員:平畑雅博 今林ひであき 津田信太郎

堤田寛 稲員稔夫 淀川幸二郎

視察期間:令和6年7月1日(月)～令和6年7月7日(日)

視察先都市名:アメリカ合衆国オークランド市 サンフランシスコ市

USオークランド・サンフランシスコ視察行程表

議員氏名 平畑 雅博 今林 ひであき
 津田 信太郎 堤田 寛
 稲員 稔夫 淀川 幸二郎

DATE	CITY	TIME	TRSF	REMARKS
1-Jul	福岡	20:40	HA-828	ハワイアン航空にて、ホノルルへ出発 ~~~ 日付変更線 ~~~
	ホノルル	10:00		ホノルル空港到着。乗換手続
	オークランド	12:10 20:30	HA-48 BART	ハワイアン航空にて、オークランドへ出発 オークランド空港到着 BARTにてホテルへ。ホテルチェックイン
2-Jul	オークランド	午前		【オークランド港視察】 オークランド港湾局による座学及び港湾施設視察。
		午後		【ジャパノイノベーションキャンパス視察】 スタートアップ支援施設。経済産業省が「海外における起業家等育成プログラムの実施・拠点の創設事業」の一環として主催する、シリコンバレービジネスの拠点。 【ムーンクリエイティブラボ】 個人、企業、スタートアップのコミュニティと協力し、ビジネスインキュベーションを推進するベンチャースタジオ。
3-Jul	オークランド	午前		【オークランド市議会表敬訪問】
		午後		【オークランド市副市長表敬訪問】 【サーキットローンチ視察】 スタートアップ支援施設。電子ハードウェア企業のコミュニティで運営。
4-Jul	オークランド サンフランシスコ	午前		【オークランド福岡姉妹都市協会（OFSCA）会長表敬訪問】
		午後		サンフランシスコへ移動
5-Jul	サンフランシスコ	午前		【在サンフランシスコ日本総領事館首席領事表敬訪問】
		午後		【Berkeley Ecology Center視察】 環境保護のための情報提供、警告・勧告、セミナーの開催、ボランティア紹介、リサイクル活動の推進、オーガニック栽培による農作物販売、森林保護、プラスチックのリサイクル運動などを行っている。
6-Jul	サンフランシスコ		BART	サンフランシスコ国際空港へ移動
	ホノルル	7:55	HA-11	ハワイアン航空にて、ホノルルへ出発
	ホノルル	10:30 13:45	HA-863	ホノルル到着。乗換手続 ハワイアン航空にて、羽田へ出発
7-Jul	羽田	17:10		羽田空港到着
	福岡	19:45 21:35	HA-5167	ハワイアン航空にて、福岡へ出発 福岡空港到着

オークランド市

【視察先名】 オークランド港湾局

【視察目的】

本市の姉妹都市の一つで、歴史の古いオークランド市は元来港町として栄えている。管理運営を担う港湾局を視察し、港湾施設の整備状況、航路数、コンテナ取扱状況などの現況を調査し、特に本市との1988年に締結している貿易協力港としての役割や取り組み状況を確認し、今後の両市の発展に寄与する。

【視察日時】令和6年7月2日(火) 10:00～12:30

【視察項目】オークランド港の港湾行政について

【相手先情報】

Bryan Brandes (Director of Maritime 海事部長)
Diego Gonzales (Government Affairs Manager 渉外担当マネージャー)
Cheryl Ho (Management Assistant 経営陣アシスタント)
Kevin Jones (Maritime Development & Business Rep 海事開発・事業担当)
Tim Leong (Maritime project Manager 上級海事プロジェクト管理者)
Evan Garrick (Government Affairs Intern 政府担当インターン)
Bradley Lellis (Maritime Intern 海事インターン)

【視察内容】

① 現況

オークランド港湾局のオフィスビル内にある港湾委員会会議室にて、オークランド港湾局及びオークランド港の概況などのプレゼンテーションを海事開発・事業担当者である Kevin Jones 氏より実施してもらう。

オークランド港湾局は1927年に設立されて以来、国際物流拠点港として世界でもいち早くコンテナ輸送を取り入れた港として活躍している。太平洋側でのコンテナターミナル港としては最古の港である。

オークランド港湾局の主要な事業は、「港湾管理」、「オークランド空港管理」、「不動産管理」に分けられ、それぞれが主な収入源となっている。

博多港とは1988年に貿易協力港として締結し、以来定期航路の就航や周年記念時には各市より訪問団を派遣し交流を行ってきた。直近では2015年まで定期航路が就航していたが、残念ながら現在では就航していない。オークランド港の概要はコンテナ取扱量は230万～240万 TEU で全米でも10位内の取扱量を誇る。大都市が並ぶ西海岸の都市圏に位

置し、北カリフォルニアを經由するコンテナ貨物の99%以上を取り扱う重要な拠点港となっている。貿易取扱金額は約132億ドルで、日本は貿易相手国としてとても重要なパートナーとして捉えている。実際に対処コンテナ数量において、日本は輸入では常時10位以内、輸出では1位の相手国として盛んに貿易が行われている。オークランド港からの主要輸出品目はアーモンドなどのナッツ類、木材パルプや牛、豚などの精肉、柑橘類、日本からの輸入品は電気自動車のバッテリーや建設重機などである。

全米でも混雑する港としても有名なオークランド港であるが、現在では港エリア内の臨港道路の大半は1970年代に整備された交通インフラが多く、老朽化に伴う改修工事を随時実施している。コンテナサイズの大型化やトラックの車高に合わせていく必要もあり、車線を増やし、道路の幅員拡幅、高架道路、トンネルの高さを拡充、路肩の整備などインフラ整備を積極的に行い、大量に往来するトラックなどの車両による慢性的な交通渋滞の緩和、ドライバーの安全確保に努めている。港湾内では運河にある2か所の船舶旋回エリアでは最長370m級船舶の対応が限界であり、近年の船舶の大型化により、400m以上の船舶が旋回可能になるよう浚渫工事などを実施できるよう州政府に申請中である。

② 環境面での取り組み

港湾エリアに限ってであるが、30台の水素トラックを導入しており、エリア内でのコンテナや貨物の移送、ハンドリングなどに活用されCO2排出抑制にチャレンジをしている。水素トラックの導入に伴い、港湾エリア内に全米で最大規模の水素ステーションを整備しており、ターミナル内CO2排出量90%削減を目標に今後も水素車両や電動車両や重機の導入を計画している。

③ 交通渋滞について

アイドリング車両からの排気ガス対策として、3年間という歳月を費やし、「オークランドポータル」というシステムを開発し、本年から導入している。

このシステムの導入時にはエリア内に多数のカメラを設置し、交通渋滞やコンテナ貨物の荷下ろし状況の様子をライブで確認が可能となっている。ドライバーは港湾エリアの現況や荷受け状況をオンタイムで携帯のアプリ上にて確認が出来るようになり、不必要な車両の流入抑制、更には交通事故防止にも繋がっている。またシステムでは流通車両のIDのチェックも可能であり、防犯対策にも寄与するなど安全面でも有効なシステムとなっている。

このシステムはAppStoreやGoogleなど無料でダウンロード可能であり、利用者への普及も簡単で迅速であった。

両市、両港の今後更なる交流の必要性を確認した後、平畑団長から Bryan Brandes 海事部長へ福岡市港湾空港局竹廣局長よりの親書を手渡した。

その後、港湾局職員も専用車に同乗し、上級管理者 Tim Leong 氏の説明を受けながら、港湾エリア内の渋滞状況、貨物鉄道、港湾施設、荷役作業状況、緑地帯や水素ステーションを視察した。

【調査事項】

①「オークランド港湾局が管理する不動産事業の概要を調査」

港湾局の建物がある土地をはじめ、周辺には渡船場、レストラン、ホテルなどが並ぶ商業地であるジャックロンドンスクエアというエリアを所有している。また、港湾エリアには貸倉庫や工場、冷蔵庫、ヤードなどの底地も管理しており、賃料は貴重な収入源となっている。

また、空港近くにビジネスパークという土地やエリア内には多くの緑地、公園、湿地帯なども管理をしている。

②「オークランド港湾局の財政状況、市との関係性を調査」

約100年前にオークランド市より独立し、財務管理は港湾局で行い、独立採算制となっている。港湾局が得る様々な収入は、港湾整備、空港整備、不動産管理費などに充当される。

市には様々な形で税金を納めているが、特に補助金などは受けておらず、国直轄事業の割合の方が高い。また、港湾局の経営や港湾局長の任命などの決定事項は港湾委員会が議決を行う。委員会メンバーはオークランド市長が任命をし、7名で構成されている。

現在の委員長はBarbara Leslie氏でオークランド商工会議所の会頭でもある。

③「オークランド市への貢献について調査」

市にとって玄関口であり、物流の拠点でもある港、空港は大変重要なインフラであると認識されている。そこで生まれる収益は、ソフト、ハード両面においての施設整備などを充実させ、市内に更に流通する食料品、物資、人流などは市民にとっても有益であり、市の経済発展のみならず、多くの恩恵を享受できていると考える。また、最大の貢献は、港湾局管轄内での、98,000人と言われる雇用の創出である。

④「オークランド市への観光貢献を調査」

このジャックロンドンスクエアは水辺の空間を活用したホテル、レストランが多くあり、観光客のみならず市民にとっても貴重な癒しのスポットとなっている。

このエリアでは更なるレストランの誘致や屋外イベントの開催などを企画し流入人口の増加を図っている。また、空港では、サンフランシスコ市街への良好なアクセス BARTなどを活かし、利用者の拡大、就航便数の増大に取り組んでいる。

【所見】

歴史あるオークランド港を視察し、港湾行政の重要性を改めて再認識をした。

独立採算制を敷く港湾局ではあるが、市との連携、そして市民への貢献や経済発展への寄与を第一に考えているのが話からよく伝わった。また、日本が貿易相手国として重要なパートナーであり、今後の取引量の拡大は港湾局としても課題として捉えているようだ。冷凍肉より生肉を好む日本人向けにチルドコンテナの拡充や、各種温度で管理できる冷蔵施設を誘致するなど積極性も感じる事ができた。

港湾施設の整備拡充は、港の発展や取扱量の増大、近年のトレンドでもあるモーダルシフトに対応し喫緊の課題であると感じた。

① 港湾混雑の解消について

混雑する港というイメージは総体的にマイナスでしかないと考える。船主のみならず、そこで働く港湾関係者、ひいては局のみならず市経済発展の足枷となりうるだろう。

このマイナスイメージの払拭の為に新システムの導入や1日16時間で2交代制で働く港湾労働者の働き方の改革を進めているが、昨年にはドライバーによるストライキや道路の封鎖などが発生し、個人事業主が多くを占めるドライバー等との労働交渉や、我が国と同じであるが、ドライバー不足問題も含め課題は山積している。一方、博多港では突発的な渋滞の発生はあるもの、Hitsシステムが機能しているため、渋滞や混雑などの問題はないかと思う。オークランド港は博多港の約2.5倍の取扱量があり、尚且つ博多とは逆に輸出の方が輸入より多いという特性がある。博多港は輸入過多で流通コンテナ車両は出ていく方が多く、必然と一方通行となっているので導線が確立していることが渋滞発生抑制となっている理由でもあると考える。

貿易協力港として本市が採用している Hits システムとオークランドポータルシステムの技術共有は両港の港湾機能強化になり、ひいては両市の発展に寄与すると考えられ、今回の視察の大切な目的の一つになった。

② 環境対策について

国策でもあるので多額の補助金があり、うまく活用できていると思った。説明をしてくれた港湾局職員には前職が下院議員の方がおり、政府渉外担当として合衆国政府との強いパイプともなっている。そのパイプを活かし、いち早く水素車両やステーションを取り入れるほか、港湾重機やクレーンなどの電動化など地道な努力を感じた。カーボンニュートラル港を目指す博多港でも、CO2排出抑制のために、荷役機械の電動化などにいち早く取り組み、国際港湾協会の「港湾環境賞金賞」を獲得した実績もあるが、港湾がかける環境負荷は大きいことから、更なる努力は必要と考える。陸上充電施設や更なる機械重機の電動化を始め、環境にやさしいクリーンな博多港というイメージはしっかり作っていかなくてはならないし、実効的な施策の展開をしていくことが肝要と思う。

③ 不動産管理について

オークランド港は古く歴史ある施設であるが、不動産管理が大きな収入源であることであると熱弁をされていた。大半の底地は昔の埋立地であるが、当時埋立事業を実施するにあたり、環境負荷の代替えとして公園の整備、緑地帯の確保を行ってきたそうである。近年の取扱量の拡大やモーダルシフトなどの世界情勢に対応するため、ヤードの拡充や岸壁の延伸、水深の拡充などハード整備、埋立を検討をしているとのこと。埋立事業は環境負荷、市民感情などにより実施は困難となっている。しかしながら堅実なハード整備は発展には欠かせないものであり、市経済との関係性、物流、人流による多大なる経済効果、港湾が生み出す雇用など、

市民への丁寧な啓発は大変重要であり、市民はもっとその事実を知るべきだと確信した。本市においても、今後の人口増加、経済成長、物流業界のトレンドなどをしっかりと捉えて、経済を生み出す新たな種地を作る埋立事業は本市港湾計画に基づき着実に推進すべきであり、博多港の発展なしに、本市の発展はないと考える。

④ 貿易協力港について

オークランド港と定期便が現在就航していないことは大変残念に感じた。これは博多港から輸出する貨物が少ないことに起因すると考える。さらなる成長を目指さなくてはならない博多港は背後の大都市である福岡都市圏の強みを活かすのは無論であるが、海外輸出を見込める産業の誘致や育成には、国、県と協力をし、力を入れてほしいと思う。

輸入面でも、受け入れ体制はまだ脆弱であり、博多港の地理的優位性を更に活かし、九州全土をはじめ本州も含め、オークランド港が取り入れている鉄道輸送システムの構築にも注力してほしいと思う。今後、確実に迎えるドライバー不足という流通システムに画期的と言える問題解決への一助になると考える。視察を通じ、関係者の方々へのご協力に感謝し、港の重要性を今後とも訴えていくことを再認識させていただいた。

【視察状況】



港湾委員会室での港湾局によるプレゼンテーション



福岡市港湾局長よりの親書を渡す平畑団長



博多織のタペストリーを渡し、集合写真



新設された水素ステーションと水素トラック



緑地帯よりガントリークレーンの荷役作業を視察



港湾施設内視察での集合写真



**PORT AND AIRPORT BUREAU
CITY OF FUKUOKA**

12-1-5F OKIHAMA-MACHI, HAKATA-KU, FUKUOKA CITY, 812-0031 JAPAN

Phone: +81-92-282-7110/7168

Fax: +81-92-282-7772

Email: butsuryu.PHB@city.fukuoka.lg.jp

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/hakata-port/index.html>

July 2nd, 2024

Mr. Danny Wan
Executive Director
Port of Oakland
530 Water Street
Oakland, CA 94607 USA

Dear Mr. Wan,

I am honored to write to you on this occasion to convey my greetings from your trade enhancement port, the Port of Hakata.

I am delighted that the delegation of Fukuoka City council members has the opportunity to visit your port.

Fukuoka and Oakland have had a good sister city relationship for more than 60 years, and to further strengthen the bond between our cities, the delegation will pay a courtesy call on the Deputy Mayor of Oakland and the President of the City Council. They are also scheduled to exchange views with the members of the Oakland-Fukuoka Sister City Association (OFSCA) and visit startup facilities.

This year marks the 36th year since the Port of Hakata and the Port of Oakland concluded the Trade Enhancement Port Agreement in 1988. During the time, our ports have engaged in various exchanges through mutual visits and information exchange. I hope that we can continue working together to expand shipping routes and economic exchanges for the further development of both ports.

I believe that the port tour and exchange of views will provide a valuable opportunity for delegation members to broaden their insights and perspectives of your port, and will also be very meaningful for further friendly exchanges between our ports.

In closing, I wish to once again express my gratitude to everyone in the Port of Oakland for their efforts in welcoming our council members. I sincerely hope that the exchange between our ports will continue to flourish in the future.

Sincerely yours,

TAKEHIRO Kiichiro
Chief Executive
Port and Airport Bureau
Fukuoka City



PORT AND AIRPORT BUREAU CITY OF FUKUOKA

12-1-5F OKIHAMA-MACHI, HAKATA-KU, FUKUOKA CITY, 812-0031 JAPAN

Phone: +81-92-282-7110/7168

Fax: +81-92-282-7772

Email: butsuryu.PHB@city.fukuoka.lg.jp

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/kowan/hakata-port/index.html>

2024年7月2日

オークランド港湾局長
ダニー ワン 様

貿易協力港の博多港からご挨拶申し上げます。

この度、福岡市議会の訪問団が、貴港を訪問する機会をいただいたことを大変嬉しく思っています。

福岡市はオークランド市と60年以上にわたる良好な姉妹都市関係を築いており、今回の訪問団は、両市の姉妹都市交流の促進のため、オークランド市副市長への表敬訪問や、市議会議長への表敬訪問のほか、オークランド-福岡姉妹都市協会（OFSCA）との意見交換や、スタートアップ施設の視察などを予定しております。

また、博多港とオークランド港は、1988年に貿易協力港を締結し、今年で36年目を迎えました。その間、両港は、相互訪問や情報交換を通じて様々な交流を行ってまいりました。今後とも、互いの更なる発展に向け、航路の拡充や経済交流の拡大に、ともに取り組んでいければと考えています

今回の訪問団が貴港を訪問し、貴港の港湾視察や意見交換をさせていただきますことは、訪問団員にとって、これまで以上に幅広い見識を広める素晴らしい機会になるとともに、両港の更なる友好交流にとっても大変有意義なものになることと思います。

今回の訪問に際し、ご尽力を頂いているオークランド港関係者の皆様に、重ねまして心から感謝を申し上げますとともに、今後とも引き続き両港の交流がますます活発になりますようお願いしております。

福岡市港湾空港局長 竹廣 喜一郎

【訪問先名】ジャパンイノベーションキャンパス

【視察目的】

国の経済産業省が「海外における起業家等育成プログラムの実施拠点の創業事業」の一環として2023年11月にシリコンバレーに日本のスタートアップの拠点施設として開設した施設の運営や取り組み状況を把握する。

【視察日時】

令和6年7月2日(火)13:00~14:00

【視察項目】

シリコンバレー内にスタートアップ拠点として開設したキャンパスでの創出・運営状況や行政としての関わり方について

【相手先情報】

ジャパンイノベーションキャンパス ジェネラルマネージャー Hiroyo Akashi
森ビル株式会社 チームリーダー 大林 直臣

【視察内容】

ジャパンイノベーションキャンパスは、スタートアップ創出に向けた人材・ネットワークの構築のため、プラットフォームとなる場を創出・運営しスタートアップ事業者をサポートする目的で設置された。経済産業省が開設した施設であり、運営については森ビル株式会社に委託している。

(1) 主な取り組みについて

- ① スタートアップの最前線であるシリコンバレー(パロアルト市)にて海外展開を目指す日本のスタートアップを支援
- ② スタートアップ事業を成長させていくためには、アイデア・技術力だけでなく資金調達・事業展開・販路開拓・人材管理等のサポートする専門の人材が必要となるが、そういう人材とスタートアップ事業者をつなぐ場・機会を提供
- ③ 現在52社が事業者として登録されている(半分が日本拠点、半分がシリコンバレー拠点)
- ④ スタンフォード大学やカリフォルニア大学バークレー校等との連携

(2) 課題について

- ①中国系やインド系のスタートアップ事業者はそれぞれのコミュニティにて資金調達しやすいが、日本のスタートアップ事業者は資金調達にかなり苦労している(日本の VC は初期のスタートアップには投資しない VC が多い)
- ②日本には400万社の中小・零細企業があるが本気で世界グローバルを目指す事業者が少ない。
- ③海外に進出する日本企業の多くは、小さな成功で事業者も VC も満足してしまい大きな成功を目指さない
- ④小学生・中学生等早い時期から起業家教育をやっていかないとグローバルな競争に勝てない
- ⑤日本の税金で運営しているため、日本のスタートアップ事業者ばかりだが、米国のスタートアップ事業者の参入も検討する必要がある
- ⑥シリコンバレーは、世界的規模を目的としたベンチャー企業が資金調達にしのぎを削っており、このキャンパスでの限界もあり、提供する支援者が少ない状況がある。

【所見】

日本のスタートアップは、世界にくらべて規模は小さい傾向がある。本市のスタートアップにおいては、さらに規模が小さい状況ともいえる。活路としては国と市は、しのぎを削るのではなく共同で取り組むことが重要と考える。その中で、本市は事業分野をしぼり特化して行うべきとも考える。特に本市の九州大学が取り組んでいる医療系ベンチャーが有望であり、ジャパンイノベーションキャンパスとも交流があり、かなり有望ではないかとの意見もあることから、本市は、地元地域という利点も考慮して支援を検討すべきと考える。

また、本市のスタートアップ事業は国内でも実績があり、アクティブであり尚且つ有名であるが、現在活躍、成長している福岡発のスタートアップ企業はまだ少なく、成長すると本市から関東圏、海外などに進出してしまうケースが多く、ユニコーン企業と言われる事業者の本市での定着が今後の課題ともいえる。本市の強みの一つに地理的優位性があり、九州県内や成長著しいアジアのマーケットを見据えて挑戦できる企業が生まれてきてほしく思う。

【視察状況】



アカシさんよりの説明



当日開催されていたランチ会参加者との意見交換



集合写真

【視察先名】ムーンクリエイティブラボ

【視察の目的】

シリコンバレー内で日本の民間企業が取り組んでいる施設であるインキュベーションでの目的や役割、取り組み状況を把握する。

【視察日時】

令和6年7月2日(火) 14:10～15:00

【視察項目】

民間企業の主導のインキュベーションの取り組みについて

【相手先情報】

ムーンクリエイティブラボ 社長兼 CEO Kaichi Yokoyama

ムーンクリエイティブラボ Chief Creative Officer Michael Peng

ムーンクリエイティブラボ 堀口 翔平

【視察内容】

ムーンクリエイティブラボは、三井物産グループでビジネスによるインキュベーションを推進するベンチャースタジオであり、その目的は民間企業である三井物産が自社の100%子会社を活用して、世界企業に遅れをとらないよう、2018年に社内起業家をインキュベートするために開設された。

- (1) 主な取り組みとしては、定期的に起業家を募集し、三井物産から3名、ムーンクリエイティブラボから3名の計6名で審査を行っており、50社程度の社内からの起業家が活動している。昨年より、三井物産社内だけではなく、外部の起業家にも門戸を開いている。ラボでは、3Dプリンターが設置されているので、様々な試作品の作成が安価でできるようになっている。これまでに10社程度が起業をしている。
- (2) 課題としては、これまでは、三井物産の社内起業家のみで活動をして、起業時の出資も三井物産からなので、通常のスタートアップの起業家よりもかなり優遇されている。そのため、厳しい競争という面ではどうしても弱い面があるとのこと。

【所見】

本市においては、日本国内では国に先駆けてスタートアップ支援を行っている。日本の中では先行しているが、世界を見渡すとアジア圏では中国系やインド系のスタートアップ事業者の成長著しい状況がある。本市においても民間企業とも連携して地元発の有望なベンチャーなどを見いだし、世界に進出しようとする事業者を発掘し育てていく支援が求められると感じた。

また、民間のスタートアップ施設を視察し、本市のような公共施設と違い、入居条件や賃料などの条件はシビアであると感じた。民間施設であるからこそ、厳しく選択され、起業家の創業率も必然と高くなっていく。運営母体としては、収益を上げるためにも有望な起業家や事業者を早めに見つけ、ユニコーン企業に育て、株式、特許の共同所有や事業買収などを行っている。スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校などの教育施設が近郊にあり、大学と連携することにより、有望な若手の獲得も出来ている。本市でも中高生を対象にスタートアップの研修やセミナーを開催し、志高い若者を育てていくことも重要だと考える。

【視察状況】



台湾出身のマイケルさんの説明を受ける



施設内には作業台などがあり製作も可能



集合写真

【訪問先名】 オークランド市議会・オークランド市役所

【訪問目的】

オークランド市の行政サービスの現状と課題、及びチェック機能としての議会のあり方と課題について、国家観の違いや行政システムの違いを踏まえた上での両市が抱える課題の解消に向けた意見交換を行い知見を得る。

【訪問日時】

令和6年7月3日(水)10:00～13:00

【視察項目】

オークランド市行政との意見交換
オークランド市議会との意見交換

【相手先情報】

オークランド市議会議員
Dan Kalb (council member)
Noel Gallo (council member)
Carroll Fife (council member, district3)
Tрева Reid (council member, district7)
オークランド市 副市長
DR. Kimberly Mayfield (deputy mayor)
オークランド市インターンシップ生

【調査項目】

- ① ベーシックインカムについて
- ② 港湾事業と街の再開発について
- ③ 環境への取り組みについて
- ④ 教育について
- ⑤ 住宅支援について

【視察内容】

(1)【オークランド市行政】

オークランド市は1998年市長と議会による統治体制をとっており、選挙により選ばれ、または任命された職員は、市の憲章に則り市政の法的枠組みとなっている。

市長はオークランド市全域を選挙区としており、一期4年の任期で2期8年まで選挙で再選されれば就任が認められている。

市長の責務は、年2回の予算案の提出、立法案・施策の市議会への提出、市の経済発展に伴う雇用の拡大に努めること、理事会・委員会のメンバーの任命、政府間との交渉である。

【オークランド市副市長との面会】

副市長と2人のインターンシップ生(大学2年生と高校2年生の女性生徒)が参加。

副市長は市長からの任命を受けて就任しているが、前職は私立大学の学長で、専門はリベラルアーツであるとのこと。就任してから間もないからか、2022年のオークランド市と福岡市の姉妹都市交流60周年記念行事のなかで実施した両市の石を使用した交流の証である壁画の存在をご存じなく、ショックを受けた次第である。副市長との意見交換の中では、女性の活躍について尋ねた。理由は市議会議員にも首席補佐官にも女性が多く見られたからである。

オークランド市は現市長を含め、歴代市長の中にも数名の女性市長が就任しているという現状がある。女性は本能的にインクルーシブであり、面倒見が良く前向きな人が多く母性があるのが特徴で誰にでも我が子のように接することが出来、情報収集の仕方も男性とは違うからではないかとの意見であった。また、ご自身が学長をしていた大学は創設者が男性であり、卒業した大学は女性が設立した大学であったが、学校の雰囲気は明らかに違ったとのことである。

【副市長との意見交換】

政策的な話になると、市議会議員同様にホームレス問題や低所得者の住居確保の課題や治安の悪さなどもあり、オークランド市内の学校に市内の子供たちが通わなくなっているとの課題を提示された。市営住宅とホームレス対策について本市の現状を説明したところ、福岡市から学ぶことが多くあるという感想を頂いた。また、コロナ禍による在宅勤務が定着し、ビジネスマンが会社に出社しなくなったことで地域の商店などが続々と廃業に追い込まれており、大きな課題の一つとして新しい業態の企業誘致や商業誘致に力を入れ販売税の確保をしていかなければならないとのことである。一方で本市はインバウンドも含めた交流人口も増加しており、天神ビッグ・バンやスタートアップ支援による起業も推進されるなか、コロナ禍後も税収は過去最高額を更新しており、人口も増加し、安心安全で住みやすく、また活気もありチャンスに恵まれている街だということを改めて感じた。

そうした中、冒頭でも副市長が福岡市について知らないことが多いことについて触れ、初めての来日には是非とも福岡市を選んで欲しいとお願いした。なお、オークランド市議会議員・副市長と話す中で最初に聞かれたのが、空港はオークランド空港とサンフランシスコ空港の

どちらを利用したかと言うことであった。オークランド空港に到着したことをお伝えすると、とても喜ばれたことが印象的であった。車でわずか30分足らずで行き来できるオークランド市とサンフランシスコ市は互いにライバル視しており、福岡市と北九州市との関係を想起させる一面も垣間見られたところである。また、市の魅力の充実や発信の大切さも再認識した。

最後に副市長からは姉妹都市として文化・芸術面での交流を深めることも今後の姉妹都市交流には必要であり、大きな意義があるのではないかとの意見を頂き意見交換を終了した。

(2)【オークランド市議会】

一方、市議会は市の立法機関として8人の議員で構成されており、内1人は全選挙区を対象に選ばれ、他の7人はそれぞれ7区選挙区ごとに選挙で選ばれており、議員の任期は1期4年で3期まで再選されれば務めることが可能であり、議員の任期は市民の意見を取り入れて決められたとのことである。また、市議会議長(1名)・副議長(1名)は議員の互選により選出される。市議会議員には行政権は無く、条例や決議案の議決、市の方針を決定し行政官もしくは市長を通じて内外部に一般的な方針を指示、年2回の予算の採決、再開発庁の理事を務める等々がある。また、市の職員は市長により選ばれ、市議会の承認をもって任命されている。

【オークランド市議会議員との意見交換】

①ベーシックインカムの実施状況について

ベーシックインカムの実施における効果や課題については、明確な答弁はなかったものの、実施が一部モデル的に行われてきたこと、また、費用対効果としては、一部に期待されたホームレス対策などの雇用政策にも効果がなかったと思われる。

②港湾事業と街の再開発

オークランド市は港湾に近く、そこで働くブルーカラーの方々が多く居住している。低所得者が家を借りることも買うことが難しく、コロナ禍の影響もありホームレスも多く、カリフォルニア州の中でも治安の悪さが際立っているとのことである。また、地域の商店など廃業する事業者も多く、コロナ禍以前に比べて街の雰囲気は悪く活気が無くなっているようである。

そうした中、新たな企業等の誘致に取り組むことで、日本で言う消費税である販売税の増収に繋がり、市財政の健全化や街の活性化に繋げていくことが喫緊の課題である。

③環境への取り組み

市長の方針でもある環境問題にも取り組んでおり、ぜんそくや肺がんの原因と言われているディーゼル燃料の廃止に向けグリーン水素の導入・普及に向けて力を入れているとのことである。

④教育

アメリカ全土の問題であると思うが、オークランド市においても児童生徒が安全に登下校でき、学校内でも安全に過ごせることが教育の最優先課題であるとのことで、本市の教育課題である地域や学校・クラス間の学力格差や教員の質の確保や負担軽減といったところまで手が届いていないことに、本市を含む日本での様々な教育課題はある意味恵まれているとも感じた次第である。また、地域間や私立・公立による格差はオークランド市にもあるとのことで共通の課題も見いだせた。

⑤住宅支援

低所得者等への住居支援策として公有地に住宅を建設してそこに住んでもらう、いわゆる市営住宅の事業が今年度から実施されるとのことであり、福岡市の福祉施策のノウハウがオークランド市で生かせるのではないかと感じた。

今後、姉妹都市として行政間でお互いの課題を共有し、先進的な取り組みの情報提供などを相互に実施することで両市の発展に繋げていくことも姉妹都市としての大きな意義があると感じた。

(3)【議場視察】

オークランド市は近年、赤字財政が問題となっており、これを議題に、ここ2週間で予算関連の議会が4回開催されたとのことである。(議会開会時間は原則6時間)

市議会議場には住民用の傍聴席もあるが、本市のように傍聴をするのみではなく、傍聴者は自身の名前を表明することで議場にて発言をする権利があり、議案ごとに1人1～2分の発言が許されているとのことであり、正に住民参加型の議会となっていると感じた次第である。多いときには100人もの住民が参加をしており議会が長引いてしまうこともあるというが、過去に住民参加が多かった議案は、メジャーリーグに所属するアスレチックスのオークランド市からの本拠地移転に伴い、オークランドコロシラムの半分を民間に売却するという議案に対して多くの住民からの意見が出され、議会も紛糾したとのことである。本市にもプロスポーツチームが本拠地として活動をしている事例があるが、このことによる郷土愛の形成や、人流の増加による経済効果など、それらのプロスポーツチームが福岡市をこれからも本拠地として活躍してもらえよう、市民全体で後押しをしていかなければという思いを改めて強く持った。

議会において住民は発言のみが許されており、それに対しての議員からの答弁は許されず、重要な質問だと議員が判断した際には後日、補佐官から連絡をし、その住民から詳しく聞き取りをするなど対応しているとのことである。この様に住民が議会に参加できるようになった背景には1960年代から1970年代の人権活動家「ブラック・パンサー」の影響であるとのことである。

【オークランド市議会の特徴】

住民参加型の議会は議会側にとっては更に緊張感を持って議会に臨むことにもつながり、住民においては更に自身の生活や地域の課題等、市の課題を真剣に考える良い機会になる一方、パフォーマンスを重視した議員などが間違った認識を市民に与える危険性も感じた。

【所見】

この度のオークランド市議会議員・副市長との面会を通じて感じたことは、締結から60年を経過していることから姉妹都市であるという認識が薄れていると思われ、まずは両市が姉妹都市として交流していることを職員や市民に知ってもらえるよう、しっかりと周知をしていくことが大切であり、市役所を始め公共施設などで福岡市と姉妹都市協定を結んでいる都市を更にアピールすることも必要であると感じた。

また、アメリカという先進国だからこそ格差の拡大があり、そのことで本来すべき教育の充実の前に子どもの通学を始め市民生活の安心安全の担保が追いついていない状況を見聞きし、改めて日本はとても恵まれている国であるということ強く感じたとともに、両市が抱える課題を共有しノウハウ等を提供し合うことは、姉妹都市としての交流の大きな意義があるということを感じた。

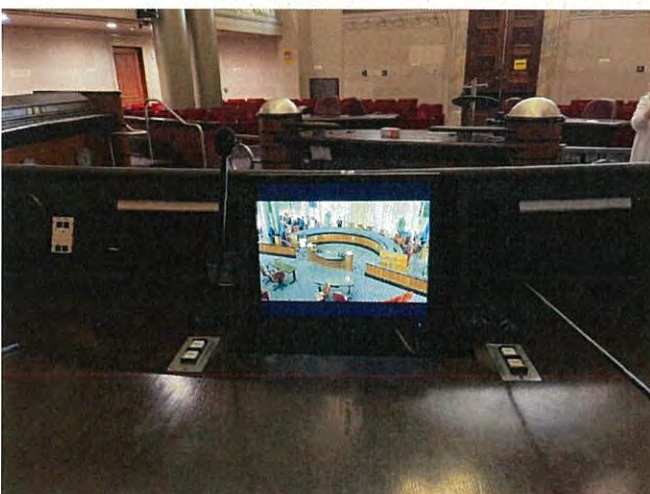
【視察状況】



オークランド市議会議員との意見交換風景



オークランド市議会議場



議場にはモニターにて議案や資料を表示している



キンバリー副市長と意見交換



副市長との記念撮影

2024年7月3日

オークランド市長
シェング タオ 様

姉妹都市の福岡市からご挨拶申し上げます。

この度、福岡市議会の訪問団が、貴市を訪問する機会をいただいたことを大変嬉しく
思っています。

今回の訪問団は、貴市滞在中に、両市の姉妹都市交流の促進のため、オークランド-
福岡姉妹都市協会 (OFSCA) との意見交換や、貿易協力港であるオークランド港の
港湾施設の視察のほか、スタートアップ施設の視察などを予定しておられます。

2年前の姉妹都市締結 60 周年記念の際にも、福岡市の議員訪問団が貴市を訪問
し、オークランド市の皆様に大変温かいおもてなしを受け、有意義な意見交換をされた
と聞いております。今回の訪問団員も、これまで以上に幅広い見識を広める素晴らしい
機会となることと思います。

今回の訪問に際し、ご尽力を頂いているオークランド市関係者の皆様に、重ねまして
心から感謝を申し上げますとともに、あらゆる分野で両市の交流がますます活発になりま
すようお願いしております。

福岡市長 高島 宗一郎

2024年7月3日

オークランド市議会議長
フォルトゥナート・バス 様

姉妹都市の福岡市からご挨拶申し上げます。

この度、福岡市議会の訪問団が、貴市を訪問する機会をいただいたことを大変嬉しく思っています。

今回の訪問団は、貴市滞在中に、両市の姉妹都市交流の促進のため、オークランド-福岡姉妹都市協会（OFSCA）との意見交換や、貿易協力港であるオークランド港の港湾施設の視察のほか、スタートアップ施設の視察などを予定しております。

2年前の姉妹都市締結60周年記念の際にも、福岡市の議員訪問団が貴市を訪問し、オークランド市の皆様に大変温かいおもてなしを受け、有意義な意見交換をされたと聞いております。今回の訪問団員も、これまで以上に幅広い見識を広める素晴らしい機会となることと思います。

今回の訪問に際し、ご尽力を頂いているオークランド市関係者の皆様に、重ねまして心から感謝を申し上げますとともに、あらゆる分野で両市の交流がますます活発になりますようお願いしております。

福岡市長 高島 宗一郎

【視察先名】 サーキットローンチ社

【視察目的】

アメリカの民間企業のスタートアップ支援の取り組みを把握するため製造設備まで整ったメカラボでの取り組みや将来の展望などを聴取し知見を得る。

【視察日時】

令和6年7月3日(水) 14:00~16:00

【視察項目】

サーキットローンチ社のスタートアップ支援施設について

【相手先情報】

サーキットローンチ メカラボ Alex Dantas

【視察内容】

サーキットローンチ社の視察

サーキットローンチ社(Circuit Launch Inc.)はカリフォルニア州オークランド市にある民間のスタートアップ支援企業である。主にロボットなどのメカトロニクス機器の製造を目的とした小規模の事業者が会員となり利用している。サーキットローンチ社の特徴としては、業務用のオフィススペースの貸し出しのみならず、生産に必要な様々な機器が整備されており、会員が自由に利用できる点にある。木工用、金属加工用の各製造機器のほか、3Dプリンターや検査機器も備えており、製造に関して十分な設備を有している。実際に利用している会員によると、オフィススペースの貸し出しを行っているスタートアップ支援企業は多く見受けられるが、製造設備まで整備されている企業はあまりみられないとのことであった。

資本関係はないが、この事業のほかにメカラボ(mechlabs)というメカトロニクスに関する教育を行う事業も展開している。

オフィスは31,000平方フィートに及ぶ専用コワーキングスペースがある。会員にオフィス、ラボ、マイクロ製造ワークスペースを提供している。24時間365日利用可能であるが、利用者に合わせた、必要な時間分の貸し出しも行っている。利用料は業種、時間により変動はするが、月額125ドルから750ドルという価格帯となっている。

【公的機関の関与について】

サーキットローンチ社の立ち上げについては、補助金などの公的機関の関与はほとんどされず、創業者の自己資金と民間からの投資により行われた。この事業に関しては、“不動産投資”として認識されており、不動産投資で確立されている投資手法が用いられているとのことであった。

【会員の事業規模及び事業内容について】

サーキットローンチ社を利用する会員企業の従業員規模は10人に満たない程度であり、規模が大きくなった際には、ここを出て、新たにオフィスや工場を構えるようである。また、サーキットローンチ社の保有する機器の規模では、大量生産に向く設備までは整っておらず、試作から小規模受注生産までの対応とのことであった。大量生産が必要となった場合は、製造委託先を探す必要がある。

会員企業の事業内容は、業務用清掃ロボットの製造や四足歩行ロボットの制御システム開発など、比較的小型のものが多く印象があった。

【メカラボについて】

メカトロニクスに関する教育を行う、メカラボという事業についても言及があった。メカラボは、メカトロニクスに興味があるものの教育の機会に恵まれなかった人を対象にした教育機関であり、サーキットローンチとは別法人として運営している。メカラボでは、履修した項目に対して、“バッジ”を与え、このバッジが能力の証明となりより良い就職先へ導いているとのことであった。

【今後の展望について】

サーキットローンチ社のような製造設備まで整ったスタートアップ支援企業はあまり見られないため、事情がない場合には退会する企業は少ない。そのため、現状の建屋では手狭になってきているとのことであった。また、木造建屋の関係上、大型の機械を導入できていないこともあり、また入居希望者の増加などに対応するために近郊に移転を考えているとのことであり、このようなスタートアップ支援企業の需要が旺盛であることを示している。

【所見】

今回、創立者であるアレックス氏が会社の概要、入所企業の説明を広い施設内を見ながら視察を行った。サーキットローンチ社の内部は、日本の町工場に近い感覚があった。このスタートアップ支援事業は、メカトロニクスやバイオ関係の工業に重点を置いている点が特徴的であり、製造設備を自由に使用することで思考を形にするプロセスを迅速に行えるため、数々のイノベーションが生まれていくことは想像に難くない。一方で、こういった企業や事業は米国でも多くなく、需要を満たせていない状況であることも見て取れた。

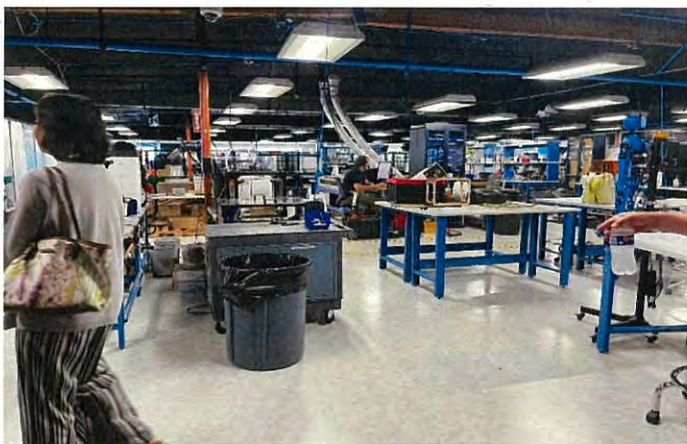
日本においても、米国同様こういった事業は多くなく、工業分野におけるスタートアップ支援の在り方を考える良いきっかけとなった。

元来、電子ハードウェアの分野は企業とその生産拠点との位置関係が重要であり、サプライヤーやメーカーとの連携が企業運営上において大切であるとされていたが、近年のマイクロマニュファクチャリング技術の進歩や設備などの発展により、プロトタイプ製作、少量生産などが可能になり、企業の設立場所は以前ほど重要視されなくなってきている。そのような技術革命はこの分野に進出しようとしている起業家にとって大きな後押しとなっていると考える。

シリコンバレーエリアに本拠地を据えたサーキットローンチには業界をリードするエンジニア、メーカー、VCなどが出会い交流できる場を提供することにより、既存企業とスタートアップ企業双方にとって貴重な場所になっていると言っても過言でない。そして、その出会いや交流は化学反応を起こし、大きな成果として多くの実績を生み続けている。

アレックス氏は、サーキットローンチを創立するまでに、何度も事業の失敗を繰り返してきたが、起業することへの情熱を持ち続ける事が大切であり、入居者にも必ず伝えるようにしているとのことであった。元々、日本のアニメが好きでロボットに興味を持ち、この分野に参入したという話が印象的であった。

【視察状況】



作業場の風景



ロボット操作



サーキットローンチ社で使用できるCNCフライス盤



ハンドジェスチャーによるロボット操作

【視察先名】 オークランド福岡姉妹都市協会事務局

【視察目的】

両市では1960年に姉妹都市として締結以来、行政レベルの交流の他、民間レベルの交流が行われてきた。今回、民間組織である福岡市姉妹都市協会を訪問し、取り組み状況を把握し、今後の交流に対する意見交換を行い両市の発展に寄与する。

【視察日時】

令和6年7月4日(木)11:30～13:30

【視察項目】

民間レベルのボランティア活動の現状と課題
留学生の派遣状況
アジア太平洋子ども会議

【相手先情報】

オークランド福岡姉妹都市協会 ゲーリー富永 会長
オークランド福岡姉妹都市協会 中村リンダ 理事
オークランド福岡姉妹都市協会 カトラー・ジェージェー 理事

【視察内容】

① 現状

協会の会長であるゲーリー富永氏を始め20人ほどのメンバーは、純粹なるボランティアであり、オークランド市内のお寺のお堂の一部を借りて、小さなイベントや会議を開いているが、協会の運営費についてはオークランド・福岡市両市からの補助は無く、会員は運営などにかかる費用を寄付や自費にて、活動をしているとのことである。以前、オークランド市に協会運営費の補助を要望したが、他の姉妹都市との関係もあり断られたということである。その際、元オークランド市職員の話として話題に上がったのは、オークランド市の職員は福岡市と姉妹都市であることを知らない人が多くいるということであった。

② 留学生の派遣状況・アジア太平洋子ども会議

協会の現在の主な活動は姉妹都市交流事業の交換留学生のお世話や「アジア太平洋子ども会議」における事務局の役割を担っているようである。

そうした中、姉妹都市交流事業である両市の小学生による交換留学事業において、日本からの留学生の宿泊先の手配や現地でのお世話等をしており、オークランド市から日本へ留学する生徒には日本のしきたりなどを前もってレクチャーするなど、事前準備のサポートをしているとのことである。以前、福岡市に留学した先輩達も手伝いをしてきているとのこと、このことは姉妹都市交流を通じて子供たちの成長にも繋がっており、また、交換留学を経験した生

徒達が今後色々な面で再度交流をすることにも繋がるのではないかと感じ、姉妹都市交流の目には見えない成果に期待をする次第である。この事業はいわゆる草の根の交流であり、この事業の参加者や関係者は、両市交流のシンボルであり架け橋である大変有意義な事業である。

③ 行政レベルの交流(60周年)

令和4年には福岡市とオークランド市が姉妹都市の締結をしてから60年を迎えるに当たり記念行事が両市民の協力を得て実施され、本市からは高島市長・伊藤市議会議長(当時)をはじめとする訪問団がオークランド市を訪れている。

記念行事のテーマは「思いやり・平和・融合」であり、環境問題などを含め両市の自然を感じることも視野に、オークランド市においては地元の企業や個人からの寄付や募金を集めることで事業の成功に結びついており、両市の自然の中にある小石を市民が拾い集め、その小石を使いモザイク壁画の作成に取り組みされた。両市を象徴する魚・鳥・木などを描き、それらがオークランド市から福岡市へ、福岡市からオークランド市へ渡って行き友好を結ぶという趣旨のものであった。この壁画はオークランド市内の公園に設置されており、オークランド市民の目を楽しませるとともに、福岡市との友好をアピールしてくれている。

【所見】

今回、私たちが米国に到着した際に、ゲーリー富永会長を始め協会役員の皆さんが、夜遅くにも関わらず、空港で温かく出迎えてくださった。初めて会う私たちに歓迎の言葉とお土産、そして何より彼らの福岡市に対する愛情を感じる事が出来た。

姉妹都市友好とは何かということが、協会の皆さんとの交流で気づく事が出来たと思う。

両市行政や議会間での交流も無論必要だが、お互い市民レベルでの本当の交流が姉妹都市交流のあるべき姿だと思う。

遠く離れたオークランド市にて、福岡市に熱い想いを馳せながら友好の為にバッチ、Tシャツ、チラシなどのグッズを自費で作成し、定例会や夏祭りなどのイベントを通じて、オークランド市民に本市の魅力などを伝えてくれている協会の皆さんの情熱や想いに対して、私たちは感謝することしかできず、歯がゆい気持ちにもなった。

行政レベルの60周年交流において作成された友好のシンボルである壁画は、オークランド市にあるものの、本市にはそのような姉妹都市と協働して作成したものは無く、このような取り組みを他の姉妹都市とも実施し、市民の憩いの場である公園などに設置することでより多くの福岡市民へ本市が姉妹都市提携を結ぶ都市のアピールにも繋がり、姉妹都市交流の目的でもある平和についても考える機会の一助に繋がるのではないかと感じた。

今後、姉妹都市交流事業を民間レベルでも発展させるためには、姉妹都市協会へ金銭面での支援を本市としても検討する必要があると感じた。また、個別事業に対する一部経費を補助するなど、今後の姉妹都市交流を民間レベルでも更に深めるべく努力が必要であると考える。私たちがオークランド市でふれる事が出来た、人との交流、温かさは姉妹都市交流事業の恩恵であり、今回の視察の意義のひとつでもある。

【視察状況】



協会事務局にて活動内容の説明を受ける



ゲーリー富永会長を始め協会役員との記念撮影

【視察先名】 在サンフランシスコ日本総領事館

【視察目的】

オークランド市、サンフランシスコ市を統括する領事館を訪問し、両市の特性や特徴に対する意見を求め、両市の理解に努めるとともに、その上で将来的展望を踏まえた本市との行政交流の可能性のみならず、日本とアメリカの国家間の違いについても認識し、今後の知見に役立てる。

【訪問日時】

令和6年7月5日(金)11:00～11:40

【視察項目】

サンフランシスコ市の現状と課題
オークランド市の現状と課題
日本との交流で注意すべき事項
日本の交流による発展の可能性

【相手先情報】

岸守 一(首席領事)
黒岩 巧充(副領事)

【視察内容】

岸守首席領事から歓迎のご挨拶をいただき、その後サンフランシスコ市やオークランド市の現状やスタートアップについて意見交換した。

① サンフランシスコ市について

岸守首席領事は、2年前にカリフォルニア州サンフランシスコ市へ着任されている。着任前はとても明るいイメージのあるカリフォルニア州にて仕事ができることに期待が大きかったが、着任するとサンフランシスコ市の治安の悪さ等に驚いたとのことである。2022年3月にコロナが収束したが、コロナ禍での在宅勤務がそのまま定着し、市全体の6割程度の人が入居していることから、ビジネス街にあるビルの空室率が上がるとともに、ビジネス街の人流が激減したため、近隣の飲食店やブティックなどが軒並み廃業に追い込まれてしまったとのことである。

そうした中、大手企業のグーグルも来年度はサンフランシスコ市内のビルとのテナント契約をせず出て行くことが決まっているとのことである。

街の人流が激減したことにより、逆にホームレスや薬物中毒者が街に流入してきており、治安が悪くなり更に人が来なくなっているとの意見があり、そうした中、2023年11月に APEC の首脳会議がテンダーロイン地区の近隣の日航ホテルで開催されたが、テンダーロイン地区は

とても治安が悪く、参加国関係者等に気をつけてもらう為、危険を知らせる看板などを設置したが、訪問者等がインスタグラム等の SNS にその看板の写真を拡散してしまい、サンフランシスコ市の治安の悪さを世界の多くの方に知らしめることに繋がったことを致し方ないが同時に嘆いてもおられた。

② オークランド市について

オークランド市については経済状況の悪化に伴い、連鎖的に野球・バスケットボール・アメリカンフットボールのプロスポーツチームがオークランド市から移転しており活気のなさに拍車をかけている状況であるとの意見であった。

【スタートアップ支援について】

本市のスタートアップ支援については国よりも大分早く支援をスタートしているが今後、国のスタートアップ支援が本格的に開始された場合にどう対応するかについては、国と同調していくのか、本市の独自路線を進むのかという意見があることであったが、政府の支援に頼りすぎると、支援終了後の企業経営など継続させていくことに限界も見えるので、これまでの実績もある中、本市独自路線でのスタートアップ支援がいいのではないかとのご意見を頂いた。

【所見】

① サンフランシスコの現状について

サンフランシスコでは、スーパーなどでの万引き額が日本円で15万円以下の場合、逮捕に至らないという現状があるとのことであった。このため、計算機を片手に15万円ギリギリまで品物をかごに入れていた万引きの現場を、首席領事ご自身もご覧になったことがあるということである。スーパーなどが軒並み廃業に追い込まれているというお話であり、国家観の違いを感じた。

② 環境について

環境問題については、環境を重視するあまりに、2車線道路の1車線全てを自転車専用道路にしてしまい、逆に車の渋滞が発生をしており CO2の排出量も増えているのではないかと懸念については共感した。このことは当然市民からは多くの怒りの声が挙がっており、次回の選挙において現市長の再選は厳しいのではないかと認識については、当然だと感じた。余りにも偏りすぎた政策は最終的には市民を不幸せにするという格好の見本であると感じた。

③ スタートアップ支援について

サンフランシスコ市はシリコンバレーでのスタートアップ支援や完全なる無人の自動運転タクシーの導入を始めカリフォルニア州の中では先進的な取り組みを進めている都市であるとの現状であるが今、市民が求めているのは「ちょうど良さ」であり、モデレートと呼ばれる市長や議員の必要性が求められているとの意見には、少し驚いた。

本市は様々な再開発も進められる中、先進的なスタートアップ支援、インバウンドの増加、

人口増などこれからも成長し続ける都市の一つであると考え、あまり性急にせず「ちょうど良い」ということも忘れずに、より多くの市民の皆様の生活の質の向上に努めていく視点も大事であると感じた。

【視察状況】



岸守首席領事、黒岩副領事との会談風景



記念写真

【視察先名】 Berkeley Ecology Center バークレーエコロジーセンター

【視察の目的】

カリフォルニア大学バークレー校など世界的に有名な大学や教育施設が集約しているバークレー市より、環境活動の草分け的存在でもあり、長年に亘り若者に対しての教育や啓蒙、市民への環境に対する認識の醸成をしているエコロジーセンターを視察し、本市の環境施策の参考にするため。

【視察日時】

令和6年7月5日(金)15:00~16:00

【視察項目】

エコロジーセンターが長年にわたり取り組む環境活動について

【相手先情報】

Christine Angelica (Store Program Manager 店舗責任者)

【視察内容】

1969年に創設以来、地元地域に根差した環境保護活動を展開し、そしてその活動は着実に全米に広がっている。

センターの主な事業は様々な環境問題に関する情報提供、注意喚起、市民啓発のセミナー開催、リサイクル推進活動、オーガニック農作物の販売、有機栽培の促進、森林保護など多岐に亘る。

当日はセンターのアンジェリカさんにセンターの事業内容や役割などを店舗内を案内してもらいながら説明を受けた。

センターには様々な環境団体を始め、多くのグループが多くの催事などを通じて交流し、活動をしている。

センターには、環境問題のみならず、毎日多くの質問が電話やメール、SNS などから集まるそうので、主な内容としてはイベント概要、ボランティア募集、古い家財などの処分の仕方など、その対応だけでも大変な作業だとのこと。

また、センターを拠点として活動する団体の一つにカーブサイドリサイクリングプログラムという組織があり、カリフォルニア州最古のリサイクル組織で非営利団体として25年の実績を持っている。新聞紙、段ボール、ガラス、プラごみなどのリサイクルを強く推進しており、この団体のメンバーが中心となってセミナーなどの講習や研修を開催している。

センターでは、年に4回「Terrain」という情報誌を発行しており、環境問題の提起、センターの活動報告、イベント告知、参考となる活動事例などを紙面にて紹介をしている。現在では

地元カリフォルニアのみならず、近年の SNS の普及に伴い、インスタグラムや X などでも精力的に情報発信をし、読者は国境を越えて世界にまで広がっているようだ。

エコロジーセンターの周辺で生産された農作物を販売するファーマーズマーケットは週2回（火、土）開催しており、地元でも有名なナッツ類、野菜、果物を始め、ジュース、ジャム、チーズやパンなどの加工品も販売し、毎回多くの住民が利用をしている。センターとしては、マーケットで無農薬、オーガニック商品を販売することで利用者に食の安全性などを伝える努力をしている。

自然保護の一環として、森林保護活動も展開しており、近年の急激に進む温暖化対策や荒廃森林対策など、セミナーでの注意啓発やボランティアによる森林保護活動に力を入れている。

【所見】

1960年代後半に、「地球環境を守り、様々な環境問題に対し真摯に取り組む人たちが集い、活動が出来る拠点が必要だ」という設立主旨で開設された歴史あるセンターを視察し、経済成長期であった当時に、世界規模での環境配慮であったり、リサイクルを主軸とした循環型のまちづくりなどの観点を既に持ち、活動を長年されてきたことに大変感銘を受けた。

センターはファーマーズマーケット運営や若者向けの環境教育だけでなく、リサイクル回収事業はパークレー市よりの委託事業でもあり、活動し続けるためにも収益確保に努力をされていた。

センター内にはリサイクル商品やオーガニック関連商品も陳列され、環境問題に関する書籍や資料がたくさんあり、自由に閲覧出来るようになっている。当日も店舗内のテーブルで数名の方が資料を利用しワークショップの打ち合わせをされていた。無料 Wifi、飲み物を完備され、毎日多くの方に利用されている。

又、マーケット事業も定着しており、センターが消費者と生産者を繋ぐことにより、オーガニック、有機農業の周知だけでなく農薬の危険性や食の安全を住民に伝えることができ、更には普段は環境問題などに興味がない住民にも安価で新鮮、美味しい農作物を提供することによりアプローチが可能となっていた。マーケットは生産者にとって市場流通には乗せられない生產品の販売という貴重な臨時収入であり、加えて対面販売による消費者との繋がりや交流の場の提供は代えがたいプラス要素となっていると思う。

本市でも、様々なところで食に関するイベントやマルシェなど開催をされるようになってきているが、ただ商品を安く買える場の提供だけでなく、消費者や利用者に分りやすいコンセプトの付加は重要と考える。

センターには、パークレー・コミュニティー・ガーデニングコラボレイティブという組織があるが、これはパークレー市民に農業生産と健康的な食物について正しい知識をもって理解してもらうための啓蒙推進グループで、農業の活性化、生産改良など豊富な知識と経験を持ったメンバーで構成されている。後継者不足などの多くの課題を抱える農業に対し、無農薬野菜などの生産導入を進め、生産する野菜に安全性という付加価値を添加することにより、ブランド化、

販売価格への転嫁、通常野菜との差別化を図り、農家所得の向上に寄与している。また若者の更生活動として農作業に指導者を派遣し、農業指導を行っている。

ファーマーズマーケットという販売機会の提供も行い、総合的に農業の下支えとなっていると感じた。

センターには、野菜や花の種が種類ごとに分類され所蔵されている。そして簡単な利用登録をすれば、種子を持って帰ることができ、家で育てることが出来る。植物が育ち、果実や種が出来たらセンターに返しに来るという取り組みがある。花や野菜を個人で育てることは、生産活動のハードルを下げる事、育てることの難しさや大切さを知ってもらう機会となり、センターが取り組む活動の理解促進になると感じた。このパークレーで始まった活動は全米に広がっているようだ。本市でも一人一花事業に力を入れているが、育てた花や植物の種を循環させることは、更に市民の意識向上に寄与すると考え、家庭菜園レベルに限るが、花だけでなく野菜や果物なども取り入れ、緑や花が溢れる都市として成長するため、ぜひ取り組んでほしいと思う。

【視察状況】



エコロジーセンター外観



店舗内には天然由来の洗濯洗剤が量り売りされている



共有スペースでは所蔵書籍を使いながら作業が出来るようになっている



店舗内には中二階があり、会議やイベントも行えるようになっている



店舗責任者アンジェリカさんと集合写真

Members of FUKUOKA City Council



Masahiro Hirahata (Representative)

Number of terms: 6



Hideaki Imahayashi (Vice-Rep)

Number of terms: 5



Shintaro Tsuda

Number of terms: 4



Kan Tsutsumida

Number of terms: 3



Toshio Inakazu

Number of terms: 3



Kojiro Yodogawa

Number of terms: 2